

キャラクター名 プレイヤー名

シンドローム	バロール		ワークス	UGNチルドレンB	カヴァー	高校生
	バロール					
オプション			年齢	17	性別	女
覚醒	憤怒	衝動	自傷	初期侵食率	33	%
出自	名家の生まれ	経験	力の暴走	邂逅	任意	母親

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値	HP	26
肉体	0	0	1			1	行動値	14
感覚	2	1	2			5	(非装備時)	14
精神	4	0	0			4	戦闘移動	19
社会	2	0	0			2	全力移動	38

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵			射撃	4		RC	1		交渉		
回避	1		知覚			意志			調達		
運転:			芸術:			知識:			情報: UGN	2	
運転:			芸術:			知識:			情報: 噂話	2	
運転:			芸術:			知識:			情報: 裏社会		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
斥力の矢	射撃	5r+3	-	Lv*2		作成武器
59)「無刺-淵(ノツナイトシュート)」1+2+3	射撃	9r+3	-	14		C値8/単体/コスト7
60)「無刺-淵(ノツナイトシュート)」1+2+3	射撃	10r+3	-	14		C値8/単体/コスト7
80)「無刺-淵(ノツナイトシュート)」1+2+3	射撃	11r+3	-	14		C値8/単体/コスト7

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ

所持品		合計装甲:	0	合計回避:	0
コネ: UGN幹部					
コネ: 情報屋					
ロイス					
対象	感情(pos)	感情(neg)	タイ	消費	
父親	P 同情	N 隔意			
UGNエージェント	P 信頼	N 偏愛			
母親	P 庇護	N 食傷			
遁走風雅(とんそうふうが)	P 執着	N 嫌悪			
晒科蓮(さらしなれん)	P 誠意	N 嫉妬			
モノ	P 信頼	N 嫉妬			
ブループ	P	N			
最大財産P:	4	残り財産P:	2		

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果: 非オーヴァードのエキストラ化								
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果: コスト分のHPで復活								
斥力の矢	1	2	マイナ	至近	自身	自動	-	
効果: 武器作成								
コンセントレイト:バロール	2	2	Xジャー	-	-	-	-	
効果: C値-Lv(下限7)								
巨人の斧	4	3	Xジャー	武器	-	対決	-	
効果: 攻+[Lv*3]/判定ダイス-2								
黒星の門	5	2	Xジャー	-	-	-	ピュア	
効果: ダイス+[Lv+1]/至近可能に変更								
時の棺	★	10	オート	視界	単体	自動	100↑	
効果: 対象の判定を失敗させる								
ディメンジョンゲート	★	3	Xジャー	至近	効果参照	自動	-	
効果: 見つけた場所に移動するゲート作成								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								

あたしの名前は咲坂いろは。コードネームは「ゼロ・グラビティ」。怪我したくなかったら無闇矢鱈とあたしに構うんじゃないわ。一人にしてくれないか。仕事はちゃんとするからさ。

いろはの両親は優秀なUGNエージェントである。彼女もまた、優秀なエージェントになるであろうと期待されて育てられた。しかしいろはが中学生のとき、彼女の目の前で大切な友人がFBIによって殺害される。その光景を目の当たりにし怒りで能力が覚醒するが、力を制御できず暴走状態となった。そんな彼女を救ったのは一人のUGNエージェントだった。暴走したことを知った父は、彼女に失望すると同時にいつれまた誰かを傷つけるのではないかと、それは自分かもしれない……と心のどこかで恐怖を感じる。そして彼女を避けるようになった。一方いろはの母は彼女に異様に執着するようになる。父から見放された彼女に寄り添うのは自分しかいない、と。また、いろはは自身も心が壊れた母を見て自分が支えなければと思うようになる。もう自分には母しかいないのだと言い聞かせるように。以来、両親の前ではUGNチルドレンとして真面目に振る舞っている。しかし普段の言葉遣いは粗野で乱暴。それは、もう二度と目の前で大切な人を失いたくないという思いから「大切な人」そのものがいなければいいと考えるようになったからである。そして必要以上に他者を寄り付かせなくなった。

自分が暴走した際に救ってくれたUGNエージェントに密かに憧れを抱きいつか恩返しをしたいと思っているが、また傷つけるものがあるのではないかと恐怖から、その存在に近寄れずにいる。

彼女が失った友人はサッカー選手を夢見る少年であった。まるで友の無念を晴らすかのように、友人の好きなサッカーを続けている。いろはにとってサッカーをしている時間は、人間として振る舞える唯一の時間であり、心の拠り所である。

サッカー部に所属する高校生。基本的に他者には冷たく接するが、UGNチルドレンとしての仕事は真面目に取り組む。
